

第3回 高知龍馬空港・航空ネットワーク成長戦略検討会議  
議事要旨

I 開催日時：平成30年11月6日（火） 10:00～12:00

II 開催会場：高知県庁2階 第2応接室

III 出席状況

（敬称略・順不同）

団体名	代表者名		備考
大阪航空局高知空港事務所	空港長	林 絹子	
四国地方整備局高知港湾・空港整備事務所	所長	高阪 雄一	
高知空港ビル株式会社	代表取締役社長	十河 清	
一般財団法人空港振興・環境整備支援機構高知事務所	所長	内田 裕人	欠席
神戸税関高知税関支署	支署長	上野 敦司	
高松入国管理局高知出張所	所長	富士原 賢一	
広島検疫所高知出張所	所長	福井 昇	
動物検疫所神戸支所四国出張所	所長	籠島 恵介	欠席
神戸植物防疫所坂出支所高知出張所	所長	土手 二巳一	
全日本空輸株式会社 高知支店	支店長	後藤 昌弘	
日本航空株式会社 高知支店	支店長	磯村 康志	
株式会社フジドリームエアラインズ高知空港支店	支店長	秋山 正之	
ジェットスター・ジャパン株式会社	取締役常務執行役員	藤岡 秀多	※
一般社団法人高知県バス協会	会長	片岡 万知雄	
高知県商工会議所連合会	専務理事	杉本 雅敏	
慶応義塾大学	教授	加藤 一誠	
南国市	市長	平山 耕三	
高知県市長会	会長	岡崎 誠也	欠席
高知県町村会	会長	池田 洋光	
高知県	副知事	岩城 孝章	

※第3回検討会議から参画

IV 次第

1 開 会

2 議 事

（1）第2回検討会議のまとめ

（2）アクションプランの具体的な取組案

- ・需要の喚起
- ・受入体制（CIQ・グランドハンドリング）の改善
- ・空港施設の機能強化
- ・アクションプランの実施体制

（3）施設整備計画の方向性

3 閉 会

## V 主な意見

### (2) アクションプランの具体的な取組案

#### 需要の喚起

##### <航空会社>

- ・ 利用促進協議会が取り組んでいる団体客向けの施策とは別に、個人のお客様向けの施策に取り組むことも有効ではないか。
- ・ 全国的に機材の小型化の傾向がある中で、早めに予約が埋まっていくと、大型機材への切替にもつながる。他県の空港を利用している方々に対し、駐車場の割引などの利用促進策や二次交通の利便性向上等の対策を早期予約キャンペーンと一緒に実施し、新規需要を摘み取ると良いと思う。
- ・ これからは個人旅行に一層注目をした各種施策が求められる。レンタカーなどの二次交通を充実させて、個人のお客様が自由に動ける環境を作ることが有効ではないか。
- ・ 情報提供の方法にも工夫が必要であり、インターネットや SNS をもっと使って、新しい層へ訴求すべきである。例えば、利用者が参加できる仕組みづくりや、多言語化の取り組みが有効だと思う。
- ・ 名古屋路線は、需要喚起の側面から考えると、まだ開拓の余地がある中部地区の方に、焦点を当てた利用促進策も進めていきたいと思う。
- ・ 若年層への PR については、絵的な情報提供が有効であるため、インスタグラムやインフルエンサーの活用などに取り組みたい。
- ・ 第 2 回検討会議で設定された目標値の設定に、身が引き締まる思いである。目標達成のためには、県民の皆様への認知が重要であり、地元での周知活動を地道に続けることが大事である。

##### <二次交通関係>

- ・ バスだけでなく、タクシーやレンタカーも人手不足が深刻である。課題が多く、タクシー業者とも連携を図り、飛行機で来ていただけるお客様に二次交通の面でも十分に対応していくために、体制を整えていきたい。

##### <経済界>

- ・ 飛行機で来るインバウンドの方に、どのようなおもてなしや旅行商品が提供できるかを検討する必要がある。

##### <自治体>

- ・ 南国市の中心地である後免と空港を結ぶ二次交通がないので、検討いただきたい。高知南国道路の一部開通により、バスの便数が減っているが、葛島から空港までの間で乗降される方の利用を喚起することも含めて、JR 後免駅、路面電車後免町駅、ごめん・なはり線のいち駅の活用についても考えていただきたい。

- ・ 市町村では、様々な観光キャンペーンを展開しているが、高知龍馬空港に着いてからの二次交通が非常に不便であり、キャンペーンの受け入れがしづらい部分がある。
- ・ 北海道と高知県は元々縁が深いのが、四国と北海道を結ぶ航空路線が弱く、北海道に來られたインバウンドの方が、「次は高知県へ」というのも有り得るので、北海道への路線の誘致を考えてはどうか。

#### 受入体制（CIQ・グランドハンドリング）の改善

##### <グランドハンドリング関係者>

- ・ ハンドリングは全国的に深刻な人手不足に陥っている。地方空港だけでなく全国的にも離職率が高く、常に人材を募集している状況である。
- ・ 今後もLCCは確実に増えていくと想定しており、その時にハンドリングの体制が適切に組めるのかが課題として残るが、なんとかハンドリングの体制を整えていきたい。

##### <CIQ>

- ・ 国際チャーター便であっても、十分な審査・検査が実施できるよう、ある程度のCIQスペースの確保が必要である。
- ・ 入国審査の時間短縮については、ブースの増設が最も効果的だが、県内の入管職員が少人数のため、大幅なブースの増加は厳しい。また、審査を円滑にするためにも、通訳のできるコンシェルジュの配置をお願いしたい。
- ・ 電源不足等で審査機材に障害が発生した場合、復旧に時間がかかるので、そのようなことがないように、十分な環境整備をお願いしたい。
- ・ 法定感染症等の有症者等が発生した際には、いかに迅速かつ適正に対応できるかが求められるので、関係機関との連携強化を図りたい。
- ・ 県内全域を少人数で対応していることから、国際チャーター便の早期の情報提供を引き続きお願いしたい。

#### (3) 施設整備計画の方向性

##### <空港関係>

- ・ 設計から工事までの期間を通常よりも短縮して、作業を進めなければならない。情報共有をしながら、できるだけ効率的に、手戻りのないよう協力していきたい。
- ・ 施設を上手く活用していくことが重要であり、関係者で知恵を絞る必要がある。お客様の利便性を考えて動線を良い形にし、新しいビルも利用されるようにしていかなければならない。
- ・ 他の事例も参考にしながら、あまり費用がかからない形で、国内線と、国際線の需要に柔軟に対応して共用できるような施設を考えていただきたい。
- ・ バスプールが既設のターミナルから遠くなる計画だが、これまでの既存の需要を大事に扱い、第一ターミナルからのアクセス性を優先にしつつ、第二ターミナルからも便利なもの

にすると良い。

- 国土交通省への手続きを順次進めていくことが必要。
- 国際チャーター便と国際定期便では、必要な設備が異なるため、具体的な図面を見ながら詳細の確認をお願いしたい。
- 空港ビルの経営の面でも、お客様の立場から見ても、搭乗客や買い物客など、実際に使われる皆様の動線をどのようにしていくかが、非常に大切なので、今後は具体的に検討していきたい。

#### <航空会社>

- 現在、国際チャーター便が就航すると、国内定期便の施設の利用が制限されるため、その解決策としても、施設整備が必要ではないか。
- 施設整備計画があることは、ハンドリングスタッフの心労とモチベーションの低下といった問題の改善につながると思うので、雇用の面でも良い影響があるのではないか。
- 国際線の旅客は、かなり早く空港に到着することもあるので、そのことを考えると、搭乗待合室の着席数の想定が少ないようにも思う。
- 現在 2~4 番の PBB スポットが混雑しており、国内チャーター便でも PBB スポットの確保が難しい状況になっているため、PBB 整備を含めた施設整備はありがたい。
- 国際線に焦点が当たっているが、国内線のハンドリングについても使い勝手の良い設計にしていきたい。
- 1 番スポットが活用できる整備であり、今後の需要に耐え得る施設の拡大をお願いしたい。
- 過去の事例を見ても、需要が拡大すれば、増便の可能性も視野に入ってくる。
- 成田空港は 2015 年から LCC ターミナルをオープンしたが、2 年で施設規模を上回る需要となり、拡張した。次にどう手を打つかということを、予め関係者が合意しておけば、次の動きが速やかにできるのではないか。

#### <二次交通関係>

- バスプールはお客様にとって使い勝手が良いように検討をお願いしたい。
- 示された案の施設の規模が、少し狭いのではという印象がある。国内外の空港を巡る環境が変わってきており、今後は空港間競争が激しくなり、海外からの LCC の就航もさらに増加していく時代になるのではないか。
- 国内線・国際線ともに、他空港との連携や観光客の周遊も考えた戦略的な発想をもって、施設規模を検討することが必要ではないか。
- 貨物専用機が飛ぶ可能性の有無なども含めて、拡張性のある、柔軟性のある施設になるよう検討していただきたい。

<CIQ>

- 示された案は、全体的に狭いという印象を受けた。
- 出国ロビーに免税店を作る場合は、物を売るための許可など必要な手続きもあるので、単純に今の売店に免税品を置くレベルとは違うという認識が必要である。
- 入国審査ブースの設置と審査場の十分な確保をお願いしたい。すり抜け防止の設備も必要になる。
- 国際線の定期便が就航するとなれば、チャーター便と異なり、個室など更に必要な設備もあるので、検討していただきたい。
- 国内線と国際線を共用するのであれば、出国者と入国者の分離や、国内線との分離ができる施設の整備と動線の確保が必要である。
- 新型インフルエンザのような空気感染の疾病を想定し、有症者に対応するための陰圧設備、消毒設備など、特殊な設備が必要になる。
- 動植物検疫のカウンターは必要だが、部屋は不要で、可動式でよい。
- 免税店を考える場合は、相手国によっては証明書の発行が必要であるため、免税店で果物を販売する場合には、どこの国の方に販売するかを確認していただきたい。

(以上)